

現代中国青年の親密関係の「スーパーマーケット化」

—結婚恋愛雑誌の経年的比較分析に基づいて

葉 青 (YE Qing、いえ・ちん) *

概要：本文では改革開放を背景とし、結婚や恋愛を対象とした雑誌の経年的変化を分析することを通して、現代中国における青年の親密関係の転換を研究する。80年代には自主的な社会主義における現実愛、90年代には世俗化したロマンティックな愛、21世紀の初めには流動的な「スーパーマーケット」愛が表現され、この変化の中で主に感情化、物質化、また流動化し、よりオープン、そして欲望化する特徴が現れる。「主導的な叙事一個人の叙事」という視角の発見を通して、親密関係を形作る主導的な力は国家から市場経済を経て、また消費主義及び科学技術へ至るという変遷を経る。現代中国の青年の親密関係の転換はまさに一種の「スーパーマーケット化」する傾向にあるのである。

一、研究方法と視角

1、研究視角

親密関係の叙事は多く二つの形態を呈する。それは主導型のオープンな叙事と普遍性のある個人の叙事である。主導型のオープンな叙事は輿論をコントロールする権利を備えた叙事であり、普遍性のある個人の叙事はすなわち、生活の境遇の中からの個人的な叙事を指す。これらは相互に影響し、特定の愛情のあり方を成り立たせる。これまでの研究は常に一つの叙事に限定し行われてきたが、本文では「主導的な叙事一個人の叙事」という視角を通して、現代中国の青年の親密関係における主要な3段階の経年的な変化を展開することを目指す。

2、研究方法

改革開放を背景として、主に恋愛や結婚にまつわる雑誌の内容から青年の親密関係の転換を分析する。資料は主に『愛情結婚家庭』と『恋愛結婚家庭』という二つの雑誌である。事実の叙述という要求から、2000年以前においては『愛情結婚家庭』を基に分析を行い、2000年以後においては『恋愛結婚家庭』を基に分析を行う。愛情観の主導的な言説（雑誌中での特定の見出しや、編集者の意見、編集者と読者の交流）と愛情叙述（具体的には読者からの手紙と愛情経験についての投稿）という二つの範疇から整理し、簡単に分類を次元分解し、各段階の特徴をまとめ、比較することでこの転換の方向を導き出す。

二、80年代：自主的な社会主義における現実愛

1、特徴：自主性、社会性、安定性、プライベート

文化慣性の遅れをかんがみて、80年代中後期の『恋愛結婚家庭』雑誌の例を選択し、二つの範疇から分析を進める。

* 南京大学社会学院修士課程。

表 1：80 年代の愛情観の主導的な言説

雑誌名及びナンバー	愛情観の主導的な言説
85.12『愛情婚姻家庭』	道徳と責任を強調すれば、愛情は社会の利益に影響する：愛情を事業の中で獲得し、共同的な理想を基礎とする：ひたむきさと忠誠を求め、安定性を強調する：恋愛は単なる交際の楽しみだけでなく、利益計算とも異なる
88.3『愛情婚姻家庭』	なし
88.5『愛情婚姻家庭』	愛情はプライベートなものとし、表に出すべきでない
88.11『愛情婚姻家庭』	幸福は愛情本体にあるだけでなく、安定にある：厳粛な愛情観：合法の範囲で勇敢に愛情を求め、封建を打破する

表 1 を見ると、主導的な言説の中で、青年の愛情は高い安定性を持ち、利益化することが期待される。その基礎となっているのは国家の共同的な理想に対して、公開性を提唱しないことである。同時に青年に自主を鼓舞し、封建的な禁忌を打破することを求めている。

プライベートな叙事の範疇に属する愛情叙述の部分は、主に愛情叙述の領域と主題・主体体験とキーワードの 3 方面から分析を進める(表 2 を参照のこと。具体的な分析は省く)。主体体験の内容を結合し、愛情が事業の中で発展を得たことを強調し、80 年代の愛情は社会主義の事業と相連携するもので、社会性を備えていることを証明している。対象を探す方法は、なおほとんど両親の紹介の領域にあるが、本人の決定権は向上し、結婚相手を探す中で、愛情の重要性が高まり、若者は慎重な態度を示すことが増え、安定性が高まった。偶発的な浮気行為に対しては批判的な態度を堅持して、性的な欲望の重要性は愛情においてまだ高くなっていない。この一時期の愛情は大体公開する風潮が低く、求愛を公開することは恥ずべきことと受け取られ、配偶者を探すことを公開することは多くの場合非難の対象となった(配偶者探しは多くは匿名だった)。この基礎の上に、キーワードについて簡単に次元分解による分類分析を進めると、主に自主性、安定性、社会性、プライベートという 4 つの次元に落ち着く。

主導的な言説の叙事と愛情叙述というプライベートな叙事を総合すると、80 年代の愛情が一種の自主的な社会主義の現実愛で、自主的、社会的、安定的、プライベートという特徴を持つことがわかる。社会主義の現実愛は社会主義・現実主義という特徴を備える愛を指し、愛情の社会性と高い安定性を強調する。この一時期の愛情は「個人の感情体験が国家建設と愛国感情に従属している」ことを強調し、忠貞と責任を自身の任務とする伝統的な愛情観が引き続き流行した。しかし青年は完全に伝統化せず、一定の感情の基礎に基づいて自主的な選択を行い、それを当然のものとした。

この一時期の主導的な叙事と個人の叙事は基本的に重なり合う。これはなぜなら、この時期の主導的な叙事は主に国家の政治意識形態によって形作られており、国家は社会建設と思想解放という二重の考慮から出ているためである。

表 2：80 年代の愛情叙述

雑誌名及びナンバー	愛情叙述の領域と主題	愛情叙述の主体体験	愛情叙述のキーワード
85.12 『愛情婚姻家庭』	愛情と事業、お見合いと紹介、性行為、遠距離恋愛、不倫、結婚・恋愛中の親密さ	愛情は神聖なものであり、厳粛で慎重であるべきで、軽視すべきでない： 不倫の懺悔と主動的な終わり：	責任義務、神聖、厳粛、安定持久、忠節を貫く、事業と理想、相思
88.3 『愛情婚姻家庭』	愛情と事業、遠距離恋愛、不倫、結婚・恋愛における選択	不倫の懺悔と主動的な終わり：確固とした愛情：人品を重く見、外見財力を軽んじる	道徳、安定、相思、含蓄
88.5 『愛情婚姻家庭』	愛情と事業、遠距離恋愛、結婚・恋愛における選択、結婚相手募集の物語、結婚・恋愛中の親密さ	確固とした愛情：大胆な結婚相手の募集、曖昧さの批判による：自主的に配偶者を選ぶ権利	プライベート、（非）保守、安定、事業、選択、自主
88.11 『愛情婚姻家庭』	結婚・恋愛における選択、有名人の結婚恋愛の逸事、初恋の経験	愛情は外的条件よりも高い：霊肉一致の恋愛・結婚観：公開プロポーズは恥ずべきである	高尚、安定、忠誠、厳粛、保守、霊肉一致

2、国家主導の親密関係の形成

(1) 国家建設とコントロール

80 年代は非市場経済の状況下であり、国家の力が親密関係の言説を主導した。国家は発展を促すため、愛情の確立と国家建設の間の関係を宣伝することを通して、青年の祖国建設に対する情熱と個人の結婚恋愛の追求を連結させた。同時に、経済発展は安定的な社会環境を求め、政治意識が社会の価値の慣性に影響していたため、このときの愛情は忠節心を持ち、安定を求めるものであった。

(2) 「ソビエト式」愛情モデルの影響

改革開放前、中国社会の思想と文化は長期的にソ連の影響を受けてきた。このような時代背景の下で、青年の愛情は主に「ソビエト式」の愛情モデルに頼った形で形成された。それは愛国の情熱と事業の理想とに相互に関連した、節操があり粘り強く、真摯な特徴をもつ純情モデルであった。同時に国家は戦略的に婦女とその感情の解放をその他の領域の解放と連動させ、輿論コントロールをより強固なものとしたため、愛情は一定程度におい

て生活を元へ帰し、自主権と敏捷性を増した。

三、90年代：世俗的なロマンティックな愛

1、特徴：ロマンティックな感情、世俗性、弱い安定性、半公開性

90年代の抜き出すべきサンプルは中後期に集中している。さまざまな変革の時代を背景として、愛情観の主導的な言説と愛情叙述の特徴はさらに複雑になった。

表 3：90年代の愛情観の主導的な言説

雑誌名及びナンバー	愛情観の主導的な言説
1995.1『愛情婚姻家庭』	愛情も理性が必要： 愛情をビジネスにすべきでない：
1996.1『愛情婚姻家庭』	愛情は縁により、また相思相愛による： 宝石は愛情を象徴する（間接広告）：
1997.1『愛情婚姻家庭』	カップルは常に心中を打ち明け、感情を通じさせるべきである： ロマンは感情の促進と維持を手助けする

表 3 を見ると、愛情観の主導的な言説は分岐が出現している。一つは、愛情の期待が相思相愛のオープンでロマンティックな愛情が基になり描写されるものであり、もう一つは、理性的な期待が付与されたものである。愛情と物質の関係において、愛情は物質化することを期待され、また物質を用いた形式によって表現されることを期待された。この時期、主導的な言説は国家政治と市場経済とその他の力のゲームから生まれ、主導的な言説を造り出す段階にも分岐が存在する。

愛情叙述の中には、主に主導的な言説のある一つの傾向が体现されている（表 4 を参照、具体的な分析を省略する）。この基礎において、キーワード分析を行うと、主にロマンティックな感情、世俗性、弱い安定性、半公開性という 4 つの次元に帰結する。

愛情の主導的な言論と愛情叙述を総合すると、90年代の愛情は一種次第に世俗化していくロマンティックな愛であると見ることができる。主な特徴はロマンティックな感情、世俗性、弱い安定性、半公開性である。90年代の愛情はロマンティックな愛の特徴を示しているが、ロマンティックな愛はただの理想的な形式であり、その本質の不安定さは極めて容易に激しい愛を冷ますことになり、市場と先天的な親和性を持つ。これによってロマンティックな愛は後期に経済的な力とその他の思潮によって世俗化され、物質はロマンティックな愛を表現・形成する基礎となり、激情と欲望も常にロマンティックな愛情の範疇を抜け出し、世俗化と欲望化と、弱い安定性を混在させた複雑なロマンティックな愛の情景を出現させた。

表 4：90 年代の愛情レポート

雑誌名とナンバー	愛情叙述の領域と主題	愛情叙述の主体体験	愛情叙述のキーワード
1995.1 『愛情婚姻家庭』	不倫、有名人の結婚・恋愛の逸事、結婚・恋愛の選択、結婚相手募集の物語、恋愛経験と気持ち、感情の危機	不倫に溺れる：外部の条件を気にしない：敢えて恋愛のプライベートを公開し、公開告白を行う	恋愛至上、執着、ビジネス、ロマンティック、愛人（第三者）、平等、キス、敢えて公開する、公開告白
1996.1 『愛情婚姻家庭』	恋愛経歴と心情、有名人の結婚・恋愛の逸事、感情の危機、愛情消費	相思相愛、宝石が愛を代表する	キス、軽薄、相思相愛、浮気、宝石
1997.1 『愛情婚姻家庭』	感情問題、恋愛の技術、有名人の結婚・恋愛の逸事、結婚・恋愛消費、初恋ストーリー	激情と心理的な一体感がないことはとても苦しい：お見合いを経ない恋愛はとてもロマンティック	激情、感動、コミュニケーション、ロマンティック、縁、愛人

90 年代において、主導的な叙事とプライベートな叙事は決して完全に重なり合うわけではなく、主導的な叙事はプライベートな叙事の中で異化したロマンティックな愛の傾向を備えているだけでなく、同様に世俗化した傾向を備えていた。これはこのとき親密関係を形作った主導的な言説の中に、国家意識だけでなく、更に市場経済の力が含まれていたためである。

2、市場経済主導下の親密関係の形成

(1) 「西洋式」の愛情モデルと大衆メディア

90 年代、中国は対外開放の歩みを内陸まで延伸させ、西洋のロマンティックな愛の観念と性の解放という思潮は改革の深度に従い全面的に浸透し、ますます規範的な青年の思想を失わせた。同時に、テレビ等の大衆メディアはもてはやされ、ロマンティックな愛に関する作品は青年の生活に満ち溢れたものとなり、ロマンティックな愛は一種のディスコースとなり氾濫を開始し、ロマンティックな愛に関する知識体系を生み出した。メディアは自身の虚構性及び経済との親和性に基づき、ロマンティックな愛の伝播が異化する過程の中で波乱を起こした。

(2) 市場経済と主導作用

1992 年の市場経済路線の確立から、市場の力は迅速に深く入り込むようになった。国家意識には経済発展かつ社会の安定要求が含まれ、親密関係の言説を形作るとき、経済発展に従い変動を求めたが、一貫して世俗化を提唱した。しかし市場経済の力は国家意識に取

って代わり、親密関係の領域の言説の主導的な地位にあり、市場経済のロジックが知らず知らずのうちに感化されていく中で、「ロマンティックな愛は一種の交際儀式的存在として構築され、消費の記号と緊密に連携するようになった」。

四、21 世紀初め：流動的な「スーパーマーケット」愛

1、特徴：物質化、流動化、公開化、欲望化

『愛情婚姻家庭』雑誌は 21 世紀に叙情的な方向に転じ、このため叙述の方向を保持した『恋愛婚姻家庭』雑誌を選び、分析を進めることとする。最新の情報を知るため、2013 年の雑誌を選び分析の見本とする。

表 5：21 世紀初めの愛情観の主導的な言説

雑誌名とナンバー	愛情観の主導的な言説
2013.1『恋愛婚姻家庭』	異性との交際は厳粛にすべきであり、気ままになりすぎない、曖昧と放縦、道徳と理性を守るべきである；感情とビジネスは異なる、喜新厭旧は相応しくない
2013.6『恋愛婚姻家庭』	真の愛情はゲームではなく、相愛の人との相互の心理的な結びつき、尊重と賛同は基礎である
2013.8『恋愛婚姻家庭』	遠距離恋愛はコミュニケーションと信頼を保つべき
2013.11『恋愛婚姻家庭』	不倫は人を傷つけ自分を傷つける
2013.12『恋愛婚姻家庭』	物質は愛情のない幸福を支えることはできない

表 5 によると、21 世紀初頭の主導的な言説は愛情における流動化、欲望化、物質化の傾向を批判している。これはこの時期の親密関係における問題がはっきりと現れていたためであり、国家と社会の意識はフィードバック式の調整を生み出したが、これは現実における愛情のあり方を変化させることはなかった。

表 6 によると、愛情叙述の中で、男女間の曖昧さは愛情のあり方の一種の主流となり、愛情の危機や異変が頻発し、主体の過度な欲望化は比較的自身によるけん責を受けることが少なくなり、愛情と物質の関係は更に直接的なものへと変化し、愛情と事業はつねに矛盾した局面を出現させるようになった。この基礎からキーワードを分析すると、主に物質化、流動化、欲望化と公開化という 3 つの次元に分けることができる。

主導的な叙事とプライベートな叙事を総合し分析すると、21 世紀初頭の愛情は一種の流動的な「スーパーマーケット」愛で、物質化、流動化、欲望化と公開化をその特徴としていることがわかる。「経済と消費は親密関係の主導的な地位を占め、愛情の一切の行為原則にも影響する」。愛情の物質化も一定の程度において流動化を導き、沈傑が指摘するように、親密関係の世俗化する傾向は青年の選択を不確実なものにし、体験質量を最高レベルまで追求させ、及び選択の自由を拡充させた。「始めから終わりまで」のモデルは次第に主導的な地位を失ったのである。中国社会が親密関係の公開化の時代を迎えた。もし公開化を依然として身体的な言説を用いた愛情の範疇内のものとして認めたならば、欲望化

は一定程度において性愛と情愛を分離するだろう。

表 6：21 世紀初めの愛情叙述

雑誌名及びナンバー	愛情叙述の領域と主題	愛情叙述の主体体験	愛情叙述のキーワード
2013.1 『恋愛婚姻家庭』	愛情と事業、曖昧な恋愛関係、感動的な愛、不倫	愛情は志を曲げないもの：ビジネスのイノベーション精神を感情の中に持ち込む	曖昧、気まま、解放、高身長でお金持ちのイケメン（高富帥）、風流、まばゆい、不倫、喜新厭旧
2013.6 『恋愛婚姻家庭』	科学技術と愛情、曖昧な恋愛関係、嫁姑関係、物質と愛情	物質のために愛情を貸し越す：情性的な曖昧さ：財産は愛情よりも重要で頼れる	物欲、売春、曖昧、ゲーム内での感情、色白のお金持ちの美女（白富美）、財産
2013.8 『恋愛婚姻家庭』	不倫、一夜の関係、愛情の危機と別れ、遠距離恋愛の矛盾	必要なのはお金で感情ではない：遠距離恋愛は信用できない：物を贈るのは浮気性	恋人、浮気相手（小三）、売春、貪婪、欲望、浮気、素敵な出会い、元カレ・元カノ、多感
2013.11 『恋愛婚姻家庭』	科学技術と愛情、男女関係の曖昧さ、物と愛情、二股、不倫、事業と愛情	浮気療法/開放的な婚姻：浮気相手でもかまわない：愛情と事業は兼業が難しい	物質、一夜の関係、恋人、浮気（出轨）、享受、高貴な娘婿（金亀婿）、高身長でお金持ちのイケメン、実用主義
2013.12 『恋愛婚姻家庭』	男女関係の曖昧さ、物と愛情、感情の変化、事業と愛情	愛情を使って物質的保障を得る：愛情は更に心血をそそぎ、犠牲を払い、責任を持ち、堅持すべきものである：	一夜の関係、浮気の釈明、曖昧さ、欲望、高身長でお金持ちのイケメン、拝金、浮気相手、家、気変わり、脆弱、物質

この一時期の主導的な叙事とプライベートな叙事は一定の対立を見せ、国家意識のフィードバック式の介入は公開叙事が新たな言説を造ること期待したが、消費主義と科学技術が主導するもう一つの言説はプライベートな叙事に深い影響を与えていた。国家の発展も消費主義に依存していたために、その中の悪性のロジックが親密関係に侵入しても何も対処する術がなかった。

2、消費主義と科学技術が主導する親密関係の形成

(1) 消費主義革命と消費主義文化

消費主義はすでに現代中国の最も重要な社会文化意識形態となっている。まさにバウマンが言うように親密関係は消費市場が公然と侵入したフィールドであり、主導的な地位にあった消費生活モデルは人々に消費対象のモデルによって他人を評価することを奨励した。同時に人々は偽りの欲望点を上昇させ、親密関係におけるコストと経済的な期待を増加させた。親密関係はその他の消費と同じように使い捨てできるものであった。大衆的な消費文化は自分自身に酔った個人主義を鼓吹し、青年伴侶の間の寛容さを奪い、安定性を破壊した。また消費主義のセクシャルなロジックは親密関係の公開化と欲望化をさらに刺激した。楊柳は「消費のセクシャル化は一つの性がどこにも行き場がない社会環境を造りだし、性の消費化のために刺激的な欲求を提供した。性の実践的な消費属性は日増しに明らかになり、性はプライベート空間の中で表現されるだけでなく、公共の空間の中でも現れるようになった」、親密性はすでに消費によって他人に誇示するための記号となったのである。

(2) 科学技術時代の感情の秩序

技術は親密関係の流動化を加速させた。ギデنزは、現代の交通と通信は個体を時空から「脱域」させ、感情の流れを加速させたと指摘した。ネットワーク技術は最も社交的な道具で、再び男女交際の空間と可能性の幅を広げた。その「すぐさま連結し、すぐさま断つ」という特質も青年に親密関係の中で束縛のない関係を保つことを渴望させた。

五、青年の親密関係の「スーパーマーケット化」への転換

3つの時期の比較を通して、核心となる変化の趨勢は主に感情の程度・物質の程度・安定の程度及び公開の程度と欲望の程度という4つの方面に集中していた。この4つの次元の変化は共同体に一種の「スーパーマーケット化」という転換を出現させた。

表7：青年の親密関係の変化の趨勢

年代	感情の程度	物質の程度	安定の程度	公開と欲望程度
80年代	社会性	利益化	高い安定性	プライベート
90年代	ロマンチックな感情	世俗性	低い安定性	半公開性
21世紀初頭	言及していない	物質性	流動性	公開化と欲望化
趨勢	親密関係の中の感情の程度は断続的に増強されたが、すぐ逆説が現れた	親密関係の中の物質の程度は断続的に増強された	親密関係の安定性は断続的に減退していた	親密関係の公開化と欲望化は断続的に増強された

現代の日常生活の「スーパーマーケット化」というロジックはバウマンが人間間の紐帯を論じたときに提出した概念であり、以下に特徴がある。買い物をコンピュータ化させた点、すべてを正札で価格を表記させた。買い物をリフォーム化させた点、不満があればいつでも取り替え可能で、かつ常にさらに上等なものの誘惑の中で良い商品を廃棄させることになった。買い物を高度な選択化させた点、スーパーマーケットの品物の豊富さが高度な選択空間を提供した。買い物の欲望を公開化させた点、商品がさらに身分の証明にもなるようにさせたのである。これは一種の高い選択性、高い消費性、高い公開性、高い欲望性と低い安定性のモデルで、転換の中で親密関係が、感情化し、物質化し、流動化し、公開化と欲望化するというロジックと特徴においてぴったりと符合する。現代の青年の愛情は日増しにスーパーマーケットモデルが引き起こした新しい快感と新しい問題を体験し、親密関係を形作る主導的な力も国家から市場経済へと、また消費主義や科学技術へと向かう変遷を経験した。当然、「スーパーマーケット化」の傾向は現在の一の可能性にすぎず、決してすでに主流となったり、あるいは未来の主流となるものではない。

安心感と自由の二つの追求は、消費主義のロジックと結合し今日の愛情の複雑な様相を導き出している。では未来はどのようなものになるのか？青年を伝統的なモデルに戻すべきではないが、消費主義の完全なコントロールから身を引くことを学習すべきなのである。

（翻訳 山口早苗）